

## 市民自治のあり方を学ぶ

～市民自治フォーラム～

3月2日(日)、市民会館で『市民自治で まちをかえよう！気づけばわかる 明日の登別』と題して『登別市民自治フォーラム』が開かれ、市民約100人が参加しました。

このフォーラムは、『登別市まちづくり基本条例』に掲げる市民自治の本質を、多くの市民が理解し、市民自治のあり方を共に考え、共に学ぶために、同条例に基づき設置された『登別市市民自治推進委員会』のメンバーが実行委員会を立ち上げ開催したものです。

はじめに行われた基調講演では、北海学園大学法学部教授の森啓もり けいさんが『市民自治』という言葉が持つ意味の大切さを訴えていました。

続いて行われた『市民自治討論会』では、5人のパネリストが「市民自治推進委員会はスタートしたけれど、具体的な役割は何かをあらためて確認する必要がある」「市民と議会と行政がもっとパートナーシップを構築していくべき」「市民自治推進委員会の結果がうまく市民に伝わっていない」などの意見や課題が出され、参加者も交えながら活発な議論が行われました。



▲北海学園大学法学部教授の森啓もり けいさん

## 大切な赤ちゃんを育てるために ～すこやかマタニティ教室～



2月15日(金)から平成19年度3回目となる『すこやかマタニティ教室』（市主催）が、3回シリーズで行われました。

この教室は、妊婦さんの食生活や出産の心構えを確認したり、妊婦さん同士や先輩ママと交流したりして、安心して出産・育児をしてもらおうと開催しています。

2月28日(木)は、8組が参加して赤ちゃんの沐浴やおむつ交換の実習などが行われ、新米パパになる参加者は、初めての沐浴体験で赤ちゃんの背中を洗うのに苦労していました。

また、市では4月から母親や胎児の健康管理と出産にかかる経済的不安を軽減するため、妊婦健康診査の公費負担を1回から5回に、超音波検査を全員1回に拡大することになっています。

## 新しい旅行の形態

～モニターツアー～

2月28日(木)～3月1日(土)、2泊3日の日程で平成19年度全国都市再生モデル調査事業として『モニターツアー』（市、市産業クラスター形成協議会、NPO法人健康保養ネットワーク、北海道大学観光学高等研究センター共催）が行われ、首都圏から8人が参加しました。

このツアーは、登別市やその周辺地域の優れた自然資源を医科学的に活用した『ヘルスツーリズム』（健康保養型旅行）の事業化に向けて行われたものです。

ツアーには医師が同行し、メタボリックシンドローム予防のための健康講座や心電図検査、唾液を採取してのストレス検査、プールでの運動浴が行われたほか、ふおれすと鉱山でスノーシューやかんじきを履いた雪上ウォーキング、登別温泉地獄谷周辺の散策、温泉入浴などが行われました。



▲ふおれすと鉱山での雪上ウォーキング